

## 平成26年度 市町村議会議員研修（5日間コース）

### 『新人議員のための地方自治基本コース』に参加した所感

東野 敏弘

5月12日～16日の5日間、大津市の全国市町村研修所（JIAM）で開催された平成26年度市町村議会議員研修（5日間コース）『新人議員のための地方自治基本コース』に参加してきました。

今回の研修は、西脇市議会が昨年11月に就任した私たち6名の新人議員に対して、市民の期待に応えられるようにしっかりと研修するようにと予算化され計画されたものです。市町議会議員として必要な基礎的・基本的知識を習得するための研修でした。町長、県議会議員を経験しているとはいえ、初心に帰りしっかりと勉強したいと考え、参加してきました。

初日の12日は、開講式と交流会でした。北は北海道千歳市、南は沖縄県糸満市から、総勢68名の新人議員の参加者でした。初日に交流会を持つことで、参加者の親近感を養い、研修の効果を挙げようと考えられたと思います。

ただ、その後、講義形式が多く、参加者間での交流がなかなか深まりませんでした。むしろ、早い段階で演習やグループ討議を計画し、悩みを出し合う中で交流を深めるべきだったと思います。

2日目の13日は、一日、講義ばかりでした。講義内容を紹介すると、講義①「地方自治制度の基本について」は、地方自治の制度的基礎、地方分権の推進、地方自治の本旨—地方の自立性—の尊重など、地方自治制度の基本と現在の課題についての講義でした。

特に私が、印象に残ったことは、次の3点でした。①地域づくりの視点から考える—地域資源・地域人材・地域ガバナンス—が大切であること ②人口減少時代の自治体経営を考えること ③「誰もがリーダー」の意識で自治体経営ができるように議会・議員も後押しをする必要性があることでした。

講義②「地方議会制度について」の講演は、総務省自治行政局行政課地方議会企画官の田中良斉氏でした。田中さんとは、県議会議員時代に兵庫県の市町振興課長として出向されていた時、懇意にさせていただきました。久しぶりに出会いましたが、説明は資料に基づき的確なものでした。

内容は、第30次地方制度調査会答申をもとに、我が国における総人口の長期的推移2004年ピーク（1億 2,784万人・高齢化率19.6%）、2030年（1億 1,522万人・高齢化率31.8%）、2050年（9,515万人・高齢化率39.6%）からくる人口減少社会にどう対応するのか、地方議会の役割について考えさせられました。

講義③「地方議会改革の課題と議会制度」は、元横須賀市役所職員でもあった新潟県立大学国際地域学部の田口一博准教授であったため、現実に即し大変分かり易い内容でした。

内容の中で特に印象に残ったのは、議会も行政も真剣に議論をする上で、重要なこととして次の3点が挙げられたことでした。①まちをいい方向に持っていく議論が大切であること ②行政をいい方向に持っていくことが大切であること ③データ・証拠に基づいて議論をすることが大切であること。

3日目の14日は、講義④「地方議員と政策法務」についてでした。政策法務とは、自治体が自らの目指していく目標を達成するために、法的な観点から合理的な判断を行い仕事をする、具体的には、まちの抱える問題解決のために条例制定をいかに行うかについてでした。私にとって、4月の研修に続く内容であったため、議員としても政策作りをしっかりと行い条例をつくれる力量を付ける重要性を再確認しました。

午後からは、「議会基本条例」をもとにした条例演習は、参加者68名を10グループに分けて行われました。

栗山町、福島町、川崎市、田川市、四日市市の2市3町の議会基本条例を比較し、5つの条例で共通する事項、特色のある事項、条例の実践により期待される効果及び課題について話し合い、その結果を発表していきました。

10の班とも、工夫された発表で、模造紙を使いわかりやすく発表している班もありました。

私が所属した8班は、7人で喧々諤々と議論しました。議会基本条例をすでに制定している議会が5議会、来年2月に制定予定の議会が1議会、制定する動きがない議会が1議会でした。自分の議会の基本条例の問題点も出し合いながら、議論を進めていきました。途中、新人議員としての悩みも出され、議論としては順調に進みませんでしたが、中身の濃い議論だったように思います。

8班の発表を私が行いましたが、議論の中で特に強調されたことをまとめ報告しました。

条例の特色的な事項として、4点について発表しました。①首長と議会及び議員の関係について、行政の『反問権』は、論点が明確になり市民にわかりやすい議論が行えるため認めるべきであること、ただし『反問権』を行使するルール作りが必要であること ②議会基本条例は、議会・議員を基本とおいた条例であるため、主語が町長・市長となっているのはおかしいのではないかということ ③条例の見直し手続きが、「一般選挙を経た任期開始後できるだけ速やかに行う」とあるが、1年ごとに行うべきではないかということ ④全体を通して、四日市市の条例が、定義、基本理念、基本方針、議会の位置づけが明確である、簡潔に書かれていて条例としてふさわしい、他の条例は理念的でありすぎると指摘しました。

4日目は、「地方議会と自治体財政」についての講義でした。自治体財政（予算・決算）における議会の役目を中心に、予算・決算の基本的な内容・仕組みについての説明でした。私にとっては、これまでの経験や現在西脇市議会で行っている勉強会で学

習してきた内容ばかりで、少々退屈な面がありました。

ただし、地方交付税の仕組みや地方債の買い入れ先、財政健全化法の内容等の整理ができました。

また、市町村財政をめぐる当面の注目点として、最新の情報を教示していただきました。その内容は、各自治体の税収に影響する消費税率8%⇒10%の動向、地方税制改正の動きの中で、地方法人税を創設して地方交付税化する動き、公共施設老朽化対策の推進、第三セクター等改革推進債の活用、公会計改革の動きについてでした。

最終日の講義は、「分権時代の地方議会（議員）に期待されていること」と題して、元人事院総裁の中島忠能氏でした。さすが、公務員のトップの役割を果たされた方で、講演の内容は大局的な時代の流れを抑えたうえで、議会の果たすべき役割について説得力あるものでした。

中島氏は、現在の世の中の流れは、主権者である住民近くで判断する地方行政の役割が重要であり、実態に合った行政であるかどうかを監視する議会の役割はますます大切になってきている。地方分権は、国の権限を県へ、県の権限を市町へという動きである。しかし、この間の統一選挙では、議会に対する批判を行い、議会改革を訴えた首長が当選している。結果、議員定数の削減、議員報酬の減額が行われた。憂うべきことであり、住民からの信頼を高め住民の期待に応える議会をつくるべき、そのために議会の方から住民の中へ入ることが大切だと力説されました。

そして、議会では議論を十分尽くし、譲歩、妥協、調和を目指して、熟議に熟議を重ねて結論を出してほしいと結ばれました。

中島氏の講義は、歴史の流れに基づく大局的な話であり、大変感銘を受けました。議会議員として、誇りを持って仕事をしたいと感じました。

4泊5日の新人議員研修には、全国から68名の議員が参加して行われました。北は北海道千歳市から、南は沖縄県糸満市、東日本大震災の被災地である福島県相馬市やいわき市からも来られていました。

2泊3日の研修とは異なり、ゆったりとした日程であるため、全国から集まってこられる議員の方々とゆっくりと意見交換ができたように思います。

特に、3日目の午後の議会基本条例の演習で同じ班になった7名のメンバーとは、交流を深めることができました。糸満市の金城議員、山形県寒河江市の太田議員、福井県大野市の梅原議員、佐賀県嬉野市の森田議員、滋賀県湖南市の栗津議員、三重県菰野町の伊藤議員と私の7名でした。

演習では、自分の自治体、議会の状況を出し合いながら議論を進めました。新人議員と言っても、就任（選挙後）3ヶ月の方から来年2月に改選を迎える方、人生経験豊富な60歳代の方から30代初めの方と様々おられました。議論を交わす中で、すぐに仲良くなり、ワイワイガヤガヤと際限なく話し合われました。8班の発表を私が行ったのですが、発表内容を皆さん考えてくれました。

そのことが縁で、夜、懇親会をしようということがすぐに決まりました。懇親会の

中で、自然に「なぜ、自分は議員に立候補したのか？」ということをお互いに出し合いました。一人ひとりが自分の人生の決断をされたことがよく分かりました。私も、話を聞きながら胸を打たれ、頑張らないといけないという決意をしました。とても、有意義な懇親会でした。

翌朝、一緒に散歩（サイクリング）をしませんかと呼びかけると、皆さん大賛成でした。早朝5時45分玄関集合と提案をしたのですが、皆さん来られるとは思っていませんでした。しかし、皆さん時間通りに揃われ、一緒に日吉大社にお参りしました。

翌々朝には、さらに別の班からも参加者が増え、三井寺や琵琶湖疏水までサイクリングしました。

早朝の気持ち良さと共に、信頼できる仲間に出会えたという気持ち良さが一緒になり、本当に楽しい充実した散策でした。

また、いつか再会できればと願っています。また、全国各地の市町村議会で大変な中頑張っておられる仲間の方に励まさせられながら、自分は西脇市民のため市議会の場で頑張りたいと決意を新たにしました。